

草薙駅周辺のまちづくり

この地区で目指す姿

多様な人々が連携して交流を生み出し、多世代が心地よく過ごせるまち

実現に向けた主な取組

1. 市道草薙駅通3号線整備

- 無電柱化や歩道拡幅、滞留空間の整備により、人々の憩いと交流を育むにぎわいのある道路空間を創出します。

2. 草薙駅周辺地区のまちなか交流の促進

- エリアマネジメント団体等と連携し、誰もが気軽に集い交流できる居場所を創出し、地域の活力向上につなげます。

3. 新幹線高架下の活用

- 草薙駅北口の新幹線高架下空間を活用し、多様な人々が集い交流できる魅力的な場を創出します。

こんなことが実現されます

- 大学生が多いという地域の強みを活かした学びや多様な活動を通じた交流が広がり、こどもからお年寄りまで安心して集い、心地よく過ごすことができる。
- 南口周辺の道路空間の再整備や北口の新幹線高架下の活用などにより、滞留や活動の場が創出され、地域住民や学生、企業等が気軽に集い、多様な交流や活動を楽しむことができる。

草薙駅周辺図

凡例： ハードの取組 ソフトの取組

※各取組の詳細は取組名をクリック！



市道草薙駅通3号線の整備

取組概要

草薙駅周辺において、沿道店舗等と連携した滞留スペースの整備やウォーカブルな道づくりを進めることで、通学や買い物の途中に気軽に立ち寄り、憩いや交流の時間を楽しむことができるようにする。

- ・ 現在、駅周辺は多くの学生や住民が行き交うものの、滞留できるスペースがなく、歩行者が快適に過ごせる憩いの空間の創出が課題となっています。
- ・ 無電柱化や歩道拡幅を行うとともに、道路空間にベンチ等の滞留できるスペースを整備し、民間や地域による利活用を進めやすい環境を整えます。
- ・ 憩いの空間が生まれることで、整備された場所を地域団体や沿道店舗が積極的に活用し、人々の集いや新たな交流を主体的に生み出していきます。

整備イメージ(案)



今後の予定

2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
無電柱化工事			供用開始						
実施設計	道路空間整備工事			供用開始					
実施設計	交差点改良(平面横断化)工事				供用開始				

⑦都市・社会基盤

目指すべき未来像

都市基盤と多様な都市サービスが連動し、誰もが住みやすく、移動しやすく、居心地の良い空間が備わったまち

現状と課題

・静岡市では、地域の経済的活力を高めるために必要な土地利用に関する規制緩和の取組が十分に行われてきませんでした。このため、耕作放棄地などの未利用・低利用地が多く、多くの地域で点在する状況となっています。また、都心部では建物の老朽化や空き店舗の増加が進み、まちの魅力が低下する一因となっています。

・人口減少に伴い空き家が増加しており、今後も増加が見込まれます。静岡市は周辺市町と比べ、家賃や土地価格が高いため、若い世代の住まい確保が難しく、定住の課題となっています。また、移動需要の減少に加え、生産年齢人口の減少に伴う担い手不足により、路線バスなど中量輸送を担う公共交通の維持が困難となっています。持続可能性と利便性を両立させた、新たな地域公共交通体系の構築が急務です。

・防災面では、南海トラフ地震や激甚化・頻発化する自然災害へ対応するため、道路・河川・上下水道などの社会基盤整備と災害時の情報収集・提供や応急対応資機材の備えなどの体制強化が課題となっています。公共インフラの老朽化による維持管理コストの増大も大きな課題となっています。

草薙駅周辺地区の まちなか交流の促進

★取組概要

草薙駅周辺

草薙駅周辺地区において、エリアマネジメント団体や地域おこし協力隊と連携し多様な主体を支援することで、誰もが気軽に集える居場所で住民や学生、企業等が交流を広げ、快適で暮らしやすい環境を身近に実感できる。



コミュニティ拠点「Takt」



JR草薙駅南口の将来像

新幹線高架下の活用

★取組概要

草薙駅周辺

草薙駅北口の新幹線高架下において、エリアマネジメント団体や自治会、企業等と連携し魅力的な交流事業を展開することで、誰もが気軽に集える場をつくり、住民や来街者が多様な体験を楽しみながら、日々の豊かさを実感できる。



地域・企業等と連携して創出した空間「よりみちSTREET」



北口広場・高架下を活用したイベントの様子

巴川浸水情報システムによるリスク情報の提供

★取組概要

安全安心

巴川流域

浸水被害が頻発している巴川流域において、現時刻から6時間先までの浸水状況を予測することで、早めの避難行動を促し、迅速な災害対応につなげる。また、現時刻の浸水状況を市民に公表している。



巴川浸水情報システムの画像
(現時刻の浸水箇所を着色により表示)



巴川浸水情報システム

課題解決のための
具体的な取組

